

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂		
事業所名	グループホーム東海の里	ユニット名	笑笑館
所在地	延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	平成24年7月18日	評価結果市町村受理日	平成24年10月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590300028&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4590300028&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成24年8月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者主体となる生活を送って頂けるよう、スタッフは側面から支援する努力をしている。</li> <li>・常に笑顔絶やさず、明るい気持ちで暮らして頂けるよう配慮している。</li> <li>・身体拘束を行わない努力と工夫を日々考えている。</li> </ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者が自由に自分のペースでゆったり、居心地よく、気持ちよく、笑顔のある、喜びのある日常生活が送れることを願い、理念を作成し、ケアを実践している。ホームの立地条件や地域とのなじみ関係の良さを生かし、利用者は自由に散歩を楽しむことができている。職員は、立位できない利用者でも、トイレでの排せつを促すなど、ケアに対する熱意がある。医療連携体制も整っており、今年の春、看取りを行っている。急変時や重度化に対し、適切な対応が期待できるため、利用者、家族は、慣れ親しんでいる地域で安心して生活している。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議を通じて、理念に沿って話し合いを行っており、ご利用者個人の人格を尊重し、尊敬の心で接するよう心がけている。	設立時の理念を基に、より具体的なホームの理念を作成し、全職員で共有している。目配り・気配りしながら、自由な生活の支援や行き届いたケアの中に、理念が活かされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に所属しており、回覧等にて、情報を得ている。 近くの小学校の行事に参加したり、子供たちの訪問などの交流もある。	近くの公民館で開催される、いきいきサロン（茶話会や生花、健康体操）に参加している。また、地域にサロンの場所として提供することもある。散歩途中の利用者と、地域の人が連れだつて来るなど、地域となじみ、関係も良好である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	季節行事を通じて、地域の高齢者及び他施設の高齢者・職員との交流を行っているも、具体的な支援方法等の発信はない。運営推進会議を通じ、区長や民生委員に理解を得、その方々を媒体に地域に話をして頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回は開催しており、その中での意見や要望に関しては、今後活かせるようにしている。	2か月に1回のペースで開催されており、区の代表や民生委員、近くの福祉事業所など、多様な顔ぶれの参加がある。最近の会議では、災害時対策や避難誘導等について話し合われている。秋に行われる避難訓練には、地域からも参加の予定がある。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業を行う上での相談や報告など、適宜電話をしたり、ホームへ見学に訪れる事もあり、行事参加への呼び掛けもし、積極的な参加を頂いている。	運営推進会議以外にも見学に訪れるなど、協働関係に積極的である。また、ホームは、認定更新の機会を利用して、相談や報告を行い、電話等での連携も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような対応が身体拘束につながるのか、全職員が理解、確認し、身体拘束をしないケアに努めている。	常日ごろから、どういう状態が拘束なのかを話し合っており、拘束の弊害について勉強している。絶えず居場所の確認をしながら、門扉の開放や各居室からそのまま外に出れるようスロープを作っており、自由な生活を支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待が見過ごされないよう、虐待防止の認識を持ちながら、支援を行っている。虐待防止関連法については、昨年度、事例をもとに勉強会を行い、理解を深めた。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ、学ぶ機会を持っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、十分に事業内容の説明を行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からの不満や苦情がある時は、ゆっくり話を聞き、改善できる事があれば、改善するよう、努力している。		家族参加の行事や来訪時、介護計画作成時など、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の定例会議にて、意見交換を行っている。また、ユニット会議も行き、身近に意見交換をしている。		業務・感染・ホーム活動・環境整備の専門部会を設置し、感染部からは、ホーム独自の感染マニュアル作成、業務部は日誌が改善されるなど、意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は全て正規職員採用とし、福利厚生等を充実させ、働きやすい体制をとっている。また、時間外に行う全体会議に関しては、手当を付与する等、柔軟に対応している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、順番に外部研修を受けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム行事への招待、案内を出し、交流を行っている。その際、情報交換を行い、勉強している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談があった時点で十分に話を聞き、安心確保のための関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、できる限り、ご利用者、ご家族に見学に来ていただき、その時に状況を聞きながら、ゆっくり話ができる時間を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者とご家族が必要としている支援を十分に見極め、支援するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしく暮らせるよう、常に寄り添い、人格を認めあい、人として対等な関係を築く努力をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、積極的に話をし、現在の様子などを伝え、その方を支えていけるように、ご家族との信頼関係を作っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム近隣のご利用者に対しては、自宅周辺へ一緒に散歩に出かけ、自宅が遠方のご利用者に対しては、ドライブにて、馴染みの場所へ出かけるよう支援している。	昔からなじみの行事である延岡大師祭りや七夕祭りに出かけ、懐かしさや喜びを得ている。家を心配される遠方の利用者には、ドライブを兼ねて訪れるなど、一人ひとりの思いを大切に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく会話ができるように雰囲気づくりに努めたり、レクリエーションを通して、ご利用者同士の親睦を深めて、孤立しないように支援している。また、トラブルを未然に防ぐよう、ご利用者同士の関係把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があれば、支援するよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意思を尊重し、その人らしい生活を送って頂けるように努力している。		職員は、利用者一人ひとりの表情や言葉で、その人らしい暮らし方の把握に努めている。住み慣れ親しんだ家屋が新築される状況を見たいという利用者を再三案内し、安心を得るなど、本人の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者の個々の性格や生活歴等を把握し、ありのままを受け入れ尊重している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	経過記録や連絡ノートの記入、閲覧や勤務者交代時の連絡を行うことで、現状の把握を行う。また、毎日の検温、血圧測定等にて、健康状態の把握を行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者、ご家族の意向を取り入れ、毎月職員会議を行い、ご利用者の方が楽しく暮らせるように、支援している。		利用者の日常生活から、思いや習慣をくみ取り、家族の要望や申し送りノート・担当職員や月例会議等で出される意見などを参考にし、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録の詳細な記入と、職員間の情報交換を密にしている。また、必要に応じてユニット会議を行い、ケアの周知徹底を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援を行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアや小学生との交流、アニマルセラピーの実施やご近所からの理解と支援を得て、地域資源を活用している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の医療機関を主体に、かかりつけ医として、体調不良などの異変がみられる際は、速やかに対応し、また、定期的に医師や看護師が往診している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の来設にて、健康相談や健康管理の連携を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、面会に行くように心がけ、ご利用者に安心感を持って頂くとともに、状況把握を行っている。退院の際には、職員全員が把握できる体制をとっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化と、看取りの必要性が生じた場合の対応は、医療連携体制を利用契約第8条に記載し、説明を行っている。		重度化し、看取りの必要が生じた場合などにおける対応として、利用契約時に本人、家族などとの密接な連携協力の下、支援できる体制であることを説明し、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを備え、緊急時には、職員全員が使えるように訓練を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には、すぐに避難できるように、避難訓練を行い、連絡網と手段を決めている。			
					避難訓練や災害対策は、積極的な取り組みがみられるが、今後更に夜間の有事を想定し、地域に参加の依頼をして、協力を得ながら訓練を行うことを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内での関係書類は持ち出しを禁じられている。また、一人ひとりに対する声かけ対応は、状況などに十分気を配っている。	更衣時の部屋の開け放しや特に、排せつ介助や入浴時、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応を意識して、ケアに取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	色々な場面での自己決定ができるよう、声かけを行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースを大切にし、職員が無理強いすることないよう、支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の好みの服装をして頂く。困難な方は、一緒に選ぶようにしている。理・美容は、ご利用者の希望がある場合、出かけたり、ホームに来ていただいたりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者も準備、片付け等を職員と共に行っている。食事は、介助を必要とする方が多くなったが、職員のペースにならないよう、ゆとり時間をかけている。	介助を必要とする利用者も多いが、利用者のペースにあわせ、ゆったりと和やかな雰囲気である。また、利用者の希望の一品が調理され、そのことを話題に、楽しい食卓になるよう支援している。	介助や休憩時間の兼ね合いで、検食者1名と一緒に食事をしているが、利用者と職員が同じ食卓を囲んで食事できるような工夫を期待したい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食後記録をし、食事内容は栄養士の指導を受け、実施している。水分量は、確保が難しいご利用者もいる為、支援していきたい。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを実施している。口腔ケアが難しいご利用者は、介助にて口腔内の清潔に努める。拒否がみられる場合は、時間をおくなどして、対応している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を記録し、把握に努めている。定期的な声かけやご利用者の意思による誘導に努めている。日中は、おむつ、リハパンの使用を極力控え、布パンツとパットのみの利用としている。	動けない利用者や立位不可能な利用者でも、座位での排せつが気持ち良いと職員は考えており、トイレでの排せつを支援している。紙パンツから布パンツへ移行された利用者もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により、一人ひとりの排便パターンの把握に努めている。便秘の方に関しては、医師の指示のもと、下剤服用をして頂いている。また、座薬を使用させて頂く事もある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、ご利用者の希望を踏まえ、無理強いせず、個々のペースに合わせて入浴を楽しんでもらえるようにしている。また、できるだけゆっくりと入浴できるように配慮している。	入浴は2日に1回としているが、2ユニットあるため、毎日入浴が行われ、希望があれば毎日入浴できる体制である。家族の来訪時には、家族から声掛け・誘導してもらうなど、一人ひとりくつろいだ気分で入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜、快眠できるように、日中一人ひとりの体調に合わせて、体操、散歩、レクリエーション等の活動をし、同じ姿勢(車椅子等)の方には声かけにより、横になって頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報により、作用・副作用、食べ物(現在、グレープフルーツ禁止の方あり)の確認。薬の変更等があった場合は、全職員が把握できるよう、申し送りノートに記載、周知徹底している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事に合わせて、負担にならないよう、お盆拭きや洗濯物たたみ等、手伝って頂いている。午後3時におやつをお出ししているが、ここで好きなお菓子を選んで頂く事もある。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に添い、ご家族と相談し、外出の機会づくりをしている。	「今日も3000歩、歩いてきた」と自慢げに報告する利用者の姿があるなど、日常的にホーム周辺を散歩している。また、季節に応じて祭りやイベントなどにも出かけている。		



自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一時預かりと施設の金庫に保管している。本人の希望に応じ、職員が購入したり、一緒に買い物に行ったりしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人は、いつでも電話をかけられるようにカウンターにて設置しており、実際かけられる等、制限はしていない。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節の催しものを制作して、掲示板や飾り壁などに作品を飾り、楽しんでいる	不快な音や臭気も無く、天窓にはスタレを施し、採光に気を配り、室温は居心地良く過ごせるよう配慮されている。庭には桜、もみじが植えられ、季節を感じ取るよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外庭にベンチがあり、思い思いに外に出て、腰掛けられ、涼んだりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた椅子や置物等を持ち込まれている。	各居室共に、使い慣れた生活用品が持ち込まれ、その人らしく落ち着いて暮らせる部屋になっている。亡き妻の仏壇を置くなど、その人の思いも大切にする居場所づくりの工夫がしてある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室には、名札等をぶら下げたり、トイレ表記もしており、各自分りやすくしている。			